



麦づくり情報(No.3)

◎農試作況試験における麦類の生育(3月1日調査)

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/20	本年	45.9	644	8.2	44.7	[気象] 2月9日~2月29日まで ◆平均気温…平年より2.7℃高い ◆日照時間…短い(平年比87%) ◆降水量…かなり多い (平年比210%) [生育] ◆草丈 全品種、全作期で長い。 ◆茎数 12/8 播種「サチホゴールド」、 「はるか二条」で多い。他は少ない。 ◆葉齢 全品種・全作期とも進んでいる。 ◆葉色(SPAD値) 全品種・全作期とも淡い。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		平年	37.7	757	7.3	46.2	
		平年比(差)	122	85	+0.9	-1.5	
	12/8	本年	36.2	648	7.0	46.5	
サチホゴールド	12/1	平年	23.3	700	6.0	48.7	
		平年比(差)	155	93	+1.0	-2.2	
		3ヵ年平均	27.0	1,206	6.8	45.1	
	前年比(差)	170	93	+1.9	-4.1		
はるか二条	12/1	本年	47.1	1,179	8.4	43.0	
		平年	22.9	929	6.3	45.7	
		平年比(差)	193	139	+1.0	-3.0	
	12/8	本年	44.1	1,293	7.3	42.7	
はるか二条	12/1	平年	25.3	1044	6.7	48.8	
		平年比(差)	172	87	+2.0	-4.6	
		3ヵ年平均	25.3	1044	6.7	48.8	
	前年比(差)	172	87	+2.0	-4.6		
はるか二条	12/8	本年	39.5	1,003	7.4	46.0	
		平年	23.3	885	6.2	48.3	
		平年比(差)	170	113	+1.2	-1.6	
	6ヵ年平均	23.3	885	6.2	48.3		

◎本年の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)	茎立期 平年と比べ
シロガネコムギ	11/20	本年	1/26	2/11	2/13	未	6日早い
		前年	1/29	2/16	2/18	3/27	
		平年	2/2	2/19	2/19	3/29	
	12/8	本年	2/14	2/20	2/24	未	12日早い
		前年	2/20	3/7	3/8	4/2	
		平年	2/22	3/4	3/7	4/6	
サチホゴールド	12/1	本年	1/29	2/16	2/20	未	13日早い
		前年	2/11	2/24	3/4	3/30	
		平年	2/8	2/25	3/4	3/28	
	12/8	本年	2/2	2/20	2/20	未	13日早い
		前年	2/12	2/28	3/9	4/3	
		平年	2/12	3/2	3/4	4/2	
はるか二条	12/1	本年	1/29	2/16	2/20	未	12日早い
		前年	2/11	2/24	3/3	3/29	
		平年	2/8	2/24	3/3	3/27	
	12/8	本年	2/1	2/20	2/20	未	4日早い
		前年	2/10	2/26	3/6	4/2	
		平年	2/13	2/28	2/24	3/31	

注1) 平年値の算出方法については前頁を参照。

注2) 1個体当たり主茎及び生育旺盛な分けつ2本の計3本の幼穂を計測。節間長は根の付け根から幼穂の根本までの長さを計測。幼穂形成始期は幼穂長1mmが30%以上に達した時期を記載。節間伸長開始期は節間長5mmが80%以上に達した時期を記載。

【生育概況】

- ・平年と比べ、2月に入ってから気温が高く、降水量が多く、日照が少なく推移したことから、草丈が高く、葉齢は1～2葉程度進んでおり、生育は10日程度早い。
生育が進んでいるため、12月初旬播種の莖数はやや少なくなっている。
- ・11月中旬播の小麦は、止葉が展開中であり、まもなく穂ばらみ期を迎える。
- ・今年の出穂期は、平年に比べてかなり前進化すると予想される(以下、出穂期予測を参考)。

※今後の気温によって、出穂期は大きく変動するので、あくまで参考値としてください！

〈農研機構:リアルタイムアメダスを用いた麦の発育ステージ予測(3月3日時点)〉

○シロガネコムギ

11/20 播種:3月24日(平年比-12日)、12/1 播種:4月1日(平年比-9日)

○チクゴイズミ

11/20 播種:3月24日(平年比-13日)、12/1 播種:出穂期 4月4日(平年比-6日)

〈佐賀農試:出穂期推定プログラム(3月3日時点、以降の気温は平年値で試算)〉

○はる風ふわり

11/20 播種: 出穂期 3月23日

○はるか二条

11/25 播種: 出穂期 3月23日、12/10 播種: 出穂期 3月31日

2. 今後の管理

1) 施肥

今年は、1月下旬以降の降水量が多く、収量及びタンパク質含有率の低下が懸念されることから、**確実に追肥Ⅱ(穂肥)及び穂揃期追肥(実肥)を施用する。**

(1)追肥Ⅱ(穂肥)

12月上中旬播種のところは、施用時期となっているので、天候を見ながら施用時期を逸しないよう施用する。

すでに茎立ちしているところでは、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。

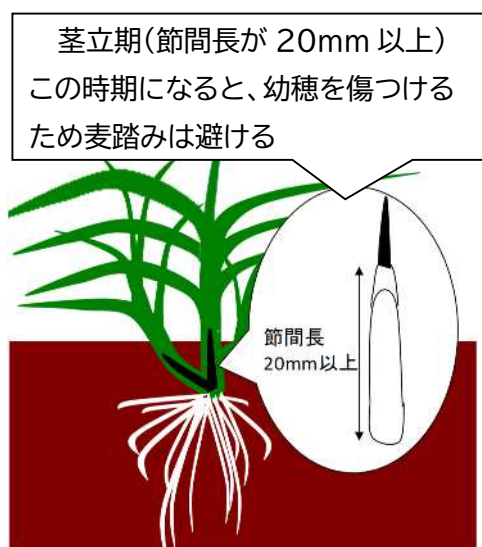
◎肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。

○ビール大麦「サチホゴールド」

【タンパク質含有率値の目標:10～11%】

2月の降水量と葉色により、穂肥量を決定する。

今年は、次表を参考に施肥する。時期は、**3月上旬までとする。**



今年の 2 月降水量は
157.5mm

2 月の月間降水量 平年値: 74.5mm	3月上旬の葉色 (SPAD値)	穂肥施用量 BB602(N成分)/10a
100mm以上	葉色にかかわらず 原則施用する	3kg (最大) *倒伏を招く可能性があるため、過剰な施肥は行わない。

(2)穂揃期追肥(実肥)

本年の出穂期は平年に比べてかなり前進化すると予想されるため、遅れないように下表を参考に散布する。
タンパクの向上に直結する穂揃期追肥は必ず施用する。特に、パン用小麦は、倒伏しそうでも必ず施用する。

葉色の褪め方にかかわらず必ず施用

品 種	窒素量 kg/10a	実肥の施用量(/10a)
パン用 はる風ふわり	5	硫安 25kg または 尿素 12.5kg
パン用 さちかおり	7	硫安 30kg または 尿素 15kg
めん用 チクゴイズミ	3	硫安 15kg または 尿素 7.5kg

葉色が薄い場合(出穂期前頃の SPAD 値 40 以下)施用

品 種	窒素量 kg/10a	実肥の施用量(/10a)
シロガネコムギ	2	硫安 10kg または 尿素5kg
大麦	2	硫安 10kg または 尿素5kg

★穂揃期追肥は、出穂期の 3 日後が効果的。それ以降に施用する場合は増量が必要となる。

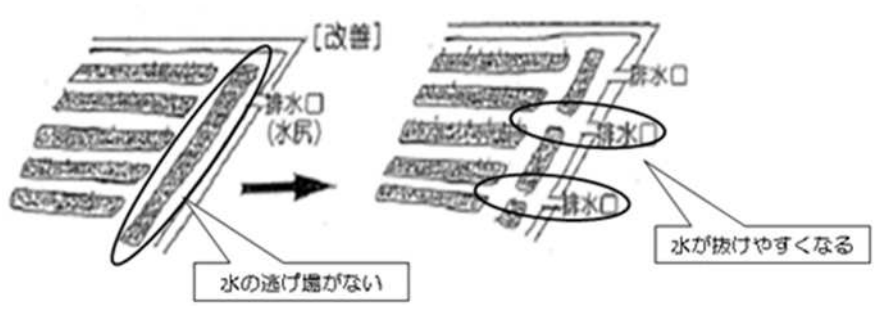
※ 出穂期 : 圃場内の4~5 割の穂が出た頃

<液肥利用の留意点>

- ・肥料を溶かす際は、直接タンクに入れると溶けない場合があるため、事前にお湯等で溶かし、タンクに入れると濃度ムラがなくなる。 ※硫安による液肥施用は難しいため、液肥利用の際は尿素を用いる。
- ・乗用管理機での施用の場合、赤かび病防除との同時施用も可能。ただし施用時期が遅くなるため、3~4割追加した量が必要になる。
- ・液肥施用後、芒や葉先などに肥料焼けがみられるが、収量や品質への影響は小さい。

2)排水対策

・生育期間中の排水不良が根の張りに大きく影響する。また、今後も降雨量が増えることが予測されるため、速やかに排水できるよう、土入れ後は、溝を排水口まで通すなど整備し、圃場内に滞水しないよう管理する。



3)病害虫防除

網斑病・赤かび病は予防が基本となる。本年の出穂期は、平年に比べてかなり前進化すると予想されるため、時期を逸さないよう防除準備・対策を講じておく。

(1) オオムギ網斑病

管内でも発生が増えてきている(県内発生ほ場率55%、発生率3.0%
(平年0.6%))。圃場・株ごとの差が大きくなっているため、各圃場の発生状況を確認が必要である。



オオムギ網斑病

防除適期は出穂期～穂揃期で、この時期の防除効果が最も高い。しかし、早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展しているような場合は、直ちに防除を行うとともに、出穂期～穂揃期にも防除を実施する。

網斑病の防除適期



注1) 出穂期とは全茎数の 40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の 80%が出穂した日。

注2) 矢印は防除適期を示し、薬剤については次表を参照とする。

注3) 出穂期より早い時期から発生株が散見され、病斑が上位葉に進展している場合は、この時期にも防除を実施する。

※ チルト乳剤は 1 回しか使用できないので注意する。

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用回数	使用方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000 倍	60～150L	収穫 21 日前まで	1 回	散布

(2) 赤かび病 「はるか二条」および「パン用小麦」については、必ず2回防除を実施する

① 小麦

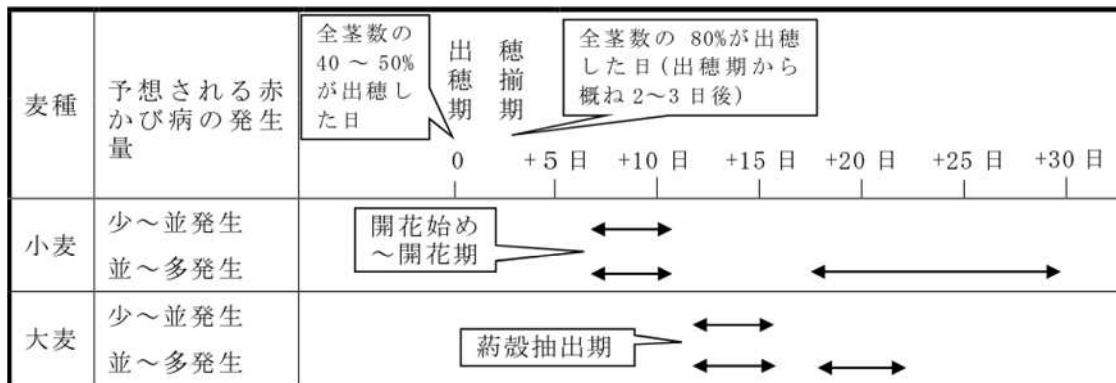
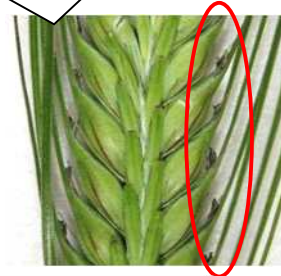
- ・開花期(=出穂期の約 7～10 日後)に防除
- ・2回目の防除(1回目防除の 10～20 日後)

② 大麦

- ・葯殻抽出始め(=出穂期の約2週間後)に防除する。
- ・多発生が予想される場合は2回実施(1回目防除7日後)とする。

※大麦でトップジンM水和剤を使用する場合は、収穫前 30 日前までの使用となっているので注意する。

大麦の芒(のげ)の下から
黒い 葯 殻 が出る時期に防除



注1) 出穂期とは全茎数の 40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の 80%が出穂した日。

注2) 小麦の開花期とは 40～50%の穂が開花した日。

注3) 大麦の葯殻抽出期とは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。

注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用量(収穫前日数)に特に注意する。

○雑草対策

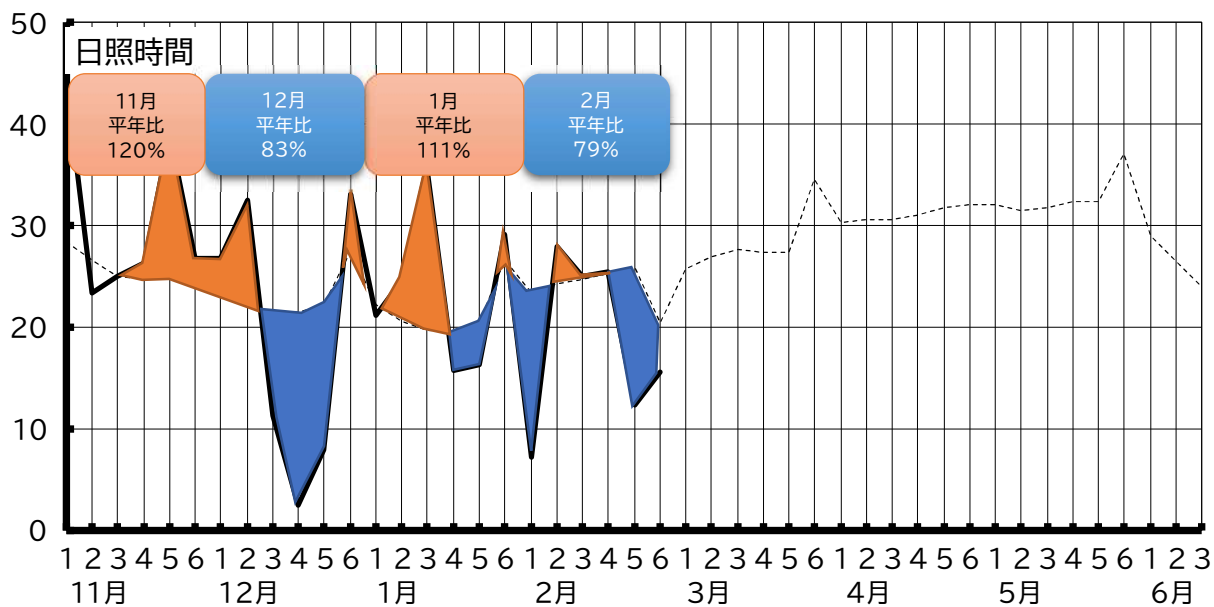
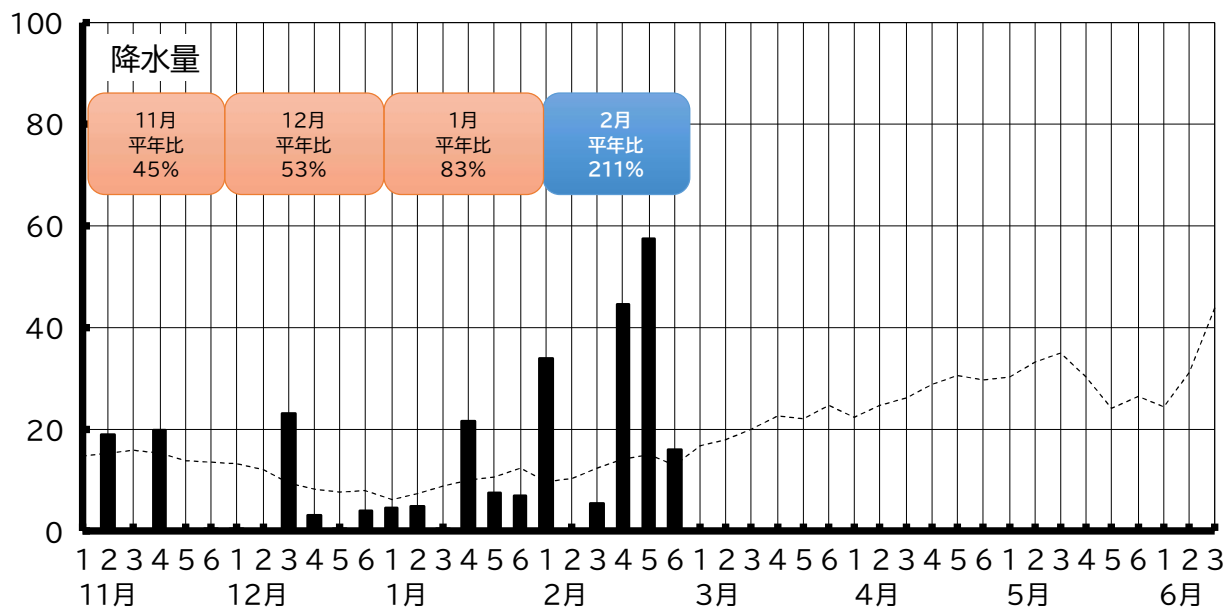
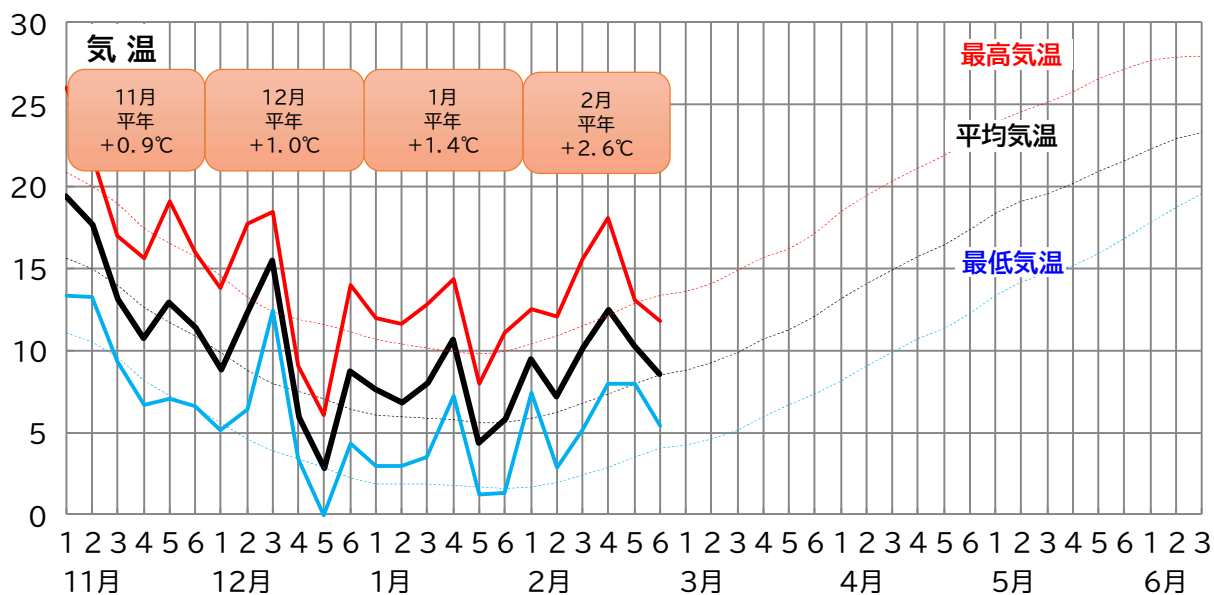
すでに使用できない薬剤もあるので、早めの散布を行うとともに処理時期には十分注意する。

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー 75DF 水和剤	1 年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	5～10g	100L	※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫 45 日前まで	1 回 以内	・カズノコグサには 10g/10a とし、 土壌処理剤との 体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマ ネギ)への飛散に は十分留意する ・ヤエムグラ、カスノコグ サへの効果は劣る
バサグラン 液剤	1 年生雑草 ※イネ科雑草に は効果がない	100～ 200ml	70～ 100L	※小麦のみ 生育期(雑草 3～6 葉期) 収穫 45 日前まで	1 回 以内	・ミヤギ、カスノコグ サ、ミノスマ等への 効果は劣る

令和6年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値(佐賀)

佐城農業振興センター



※グラフ中の点線は平年値